

「高崎プライド」 ～心と形を整える～

令和2年11月13日(金) NO17 文責 木下 文秋

「勉強ができる人」が「頭がいい人」とは限らない

皆さんの周りに「この人勉強ができるなあ」と思う人がいますよね。私も学生の頃に、うらやましいくらい勉強ができる人がいました。勉強ができる人とは、授業をよく理解していて、どんな問題でもすらすら解く人。もっと言えば、定期テストの成績が常に学年上位である人。そんなところでしょうか。似た言葉で「頭がいい人」という言い方もあります。私はテレビを観ていて、的を射たコメントをする人を見ると「頭がいいなあ」と思いますが「勉強ができるなあ」と口にすることはありません。他にも、物事をとても分かりやすく説明したり、その場をうまくまとめるような司会進行をしたりする人にも「頭がいいなあ」と思うけど「勉強ができるなあ」とは思いません。要するに勉強ができる人だと判断する基準は、点数や順番などの結果を自分と比較してその差を感じた時だと思っています。それに対し、その人の話や立ち振る舞いを見て「さすがだな。賢いな」と感動した時に「頭がいいな」と感じるのだと思います。ところが、勉強ができて超一流大学を卒業している人の中には、色々な問題に手を染めたり、トラブルを起こしたりして、渦中の人となっていることも良く見かけます。やっぱり人としての本質的な価値というのは、誠実な心であったり謙虚な言動であったりする訳で、その場にふさわしくない発言や行動を厳に慎む判断ができる人には「頭がいいな。賢いな」という言葉が出てくるのではないかと思います。どんなに勉強ができて品位や謙虚さのない人にはなりたくないものです。アメリカの大統領選挙が行われました。その中で最初の女性副大統領となるハリスさんの演説が紙面で話題となっています。彼女は父がジャマイカ、母はインドからの移民で黒人女性として、アジア系として初の米国副大統領となる予定です。彼女は「私は最初の女性副大臣だが、最後にはならない。今夜ここ(アメリカ)は可能性の国であるということ、全ての少女が目当たりにしたからだ」と演説しています。彼女の学歴や、キャリアについては一切記載されていないので、勉強ができる人かどうかはわかりませんが、その演説の一部を聞いただけで、勉強の成績とは無縁で、もっと大事なものを備えていることを感じます。当然勉強は大事ですが、その人の持つ品格や人に与える印象もそれ以上に大事だと思いました。